



頼れる病院 危ない病院

No.	医療機関名	所在地	乳がん手術数	乳がん生存率	内臓		乳癌専門医数	腫瘍内科医数	リンパ節転移	放射線治療	マンモトーム
					腫瘍	再発					
1	大阪府立成人病センター	大阪府大阪市	303	75.9	0	0	4	2	○	○	○
2	関西労災病院	兵庫県尼崎市	244	64.3	0	2	2	0	○	○	○
3	乳癌クリニック児玉外科	京都府京都市	243	92.6	0	0	2	0	※1	○	○
4	京都府立医科大学附属病院	京都府京都市	226	83.2	168	64	3	0	※2	○	○
5	大阪大学医学部附属病院	大阪府吹田市	223	51.6	17	61	8	1	○	○	○
6	大阪プレストクリニック	大阪府大阪市	222	76.6	0	6	2	0	○	○	○
7	加藤乳癌クリニック	滋賀県草津市	193	88.1	166	0	1	0	○	○	○
8	姫路赤十字病院	兵庫県姫路市	186	69.9	0	0	1	0	○	○	○
9	和歌山県立医科大学附属病院	和歌山県和歌山市	182	73.1	0	0	2	0	○	○	○
10	関西医科大学附属枚方病院	大阪府枚方市	175	57.1	0	15	1	2	○	○	○
11	大阪厚生年金病院	大阪府大阪市	172	84.9	0	4	2	0	○	○	○
12	神鋼病院	兵庫県神戸市	146	74.7	5	33	1	1	○	○	○
13	医学研究所 北野病院	大阪府大阪市	142	68.3	0	0	1	0	○	○	○
14	市立豊中病院	大阪府豊中市	141	44.0	0	2	2	0	○	○	○
15	大阪市立大学医学部附属病院	大阪府大阪市	130	46.2	0	2	4	0	○	○	○
16	大阪市立総合医療センター	大阪府大阪市	118	62.7	0	0	2	1	○	○	○
17	大阪医科大学附属病院	大阪府高槻市	114	70.2	0	5	3	0	○	○	○
18	大阪労災病院	大阪府堺市	105	82.9	0	1	1	0	○	○	○
19	八尾市立病院	大阪府八尾市	105	68.6	0	0	2	0	○	○	○
20	京都第一赤十字病院	京都府京都市	104	60.6	-	-	1	0	○	○	○
21	大阪警察病院	大阪府大阪市	97	63.9	0	5	1	0	○	○	○
22	東大阪市立総合病院	大阪府東大阪市	95	38.9	0	0	1	0	○	○	○
23	加古川市民病院	兵庫県加古川市	92	69.6	0	0	0	0	※2	○	○
24	ひんがし総合医療センター市立豊中野病院	大阪府豊中野市	91	73.6	0	0	1	1	○	○	○
24	大阪赤十字病院	大阪府大阪市	91	46.2	0	0	1	0	○	○	○

※1 腫瘍下部のみ転移(サンプリング) ※2 サンプリングで転移の有無を判断

No.	医療機関名	所在地	胃がん手術数	うち腫瘍転下	院内死亡数(死亡率)	総合不全数(不全率)	放射線治療	連携	術後補助化学療法
1	大阪市立総合医療センター	大阪府大阪市	190	110	0	4(2.11)	3	○	Ⅰ期～
2	大阪医科大学附属病院	大阪府高槻市	185	103	0	5(2.7)	1	○	Ⅰ期～
3	和歌山県立医科大学病院	和歌山県和歌山市	178	51	0	2(1.12)	1	-	Ⅰ期～
4	関西医科大学附属枚方病院	大阪府枚方市	168	33	1(0.63)	0	0	○	Ⅰ期～
5	兵庫県立がんセンター	兵庫県明石市	167	23	0	9(5.39)	2	◎	Ⅰ期～
6	大阪府済生会中津病院	大阪府大阪市	159	9	0	1(0.63)	0	○	Ⅰ期～
7	大阪市立大学医学部附属病院	大阪府大阪市	157	30	2(1.27)	13(8.28)	2	○	Ⅰ期～
8	大阪赤十字病院	大阪府大阪市	148	7	0	5(3.38)	0	○	Ⅰ期～
9	関西労災病院	兵庫県尼崎市	133	0	0	1(0.75)	0	○	Ⅰ期～
10	大阪警察病院	大阪府大阪市	132	53	0	1(0.76)	1	◎	Ⅰ期～
11	大阪大学医学部附属病院	大阪府吹田市	128	67	1(0.78)	2(1.56)	3	○	Ⅰ期～
12	大阪府立成人病センター	大阪府大阪市	124	17	0	2(1.61)	0	◎	Ⅰ期～
13	神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫県神戸市	122	21	0	7(5.74)	1	◎	Ⅰ期～
14	市立豊中病院	大阪府豊中市	118	0	0	5(4.24)	1	◎	Ⅰ期～
15	滋賀県立成人病センター	滋賀県守山市	115	28	1(0.87)	2(1.74)	0	◎	Ⅰ期～
16	大阪労災病院	大阪府堺市	112	35	1(0.89)	2(1.79)	2	◎	Ⅰ期～
17	京都府立医科大学附属病院	京都府京都市	111	16	0	5(4.5)	2	○	Ⅰ期～
18	大阪府立急性期・総合医療センター	大阪府大阪市	109	11	0	1(0.92)	2	◎	Ⅰ期～
19	兵庫県立尼崎病院	兵庫県尼崎市	103	25	0	0	0	○	Ⅰ期～
20	京都桂病院	京都府京都市	98	50	-	-	1	◎	Ⅰ期～
20	大津赤十字病院	滋賀県大津市	98	7	-	-	0	◎	Ⅰ期～
22	田附興風会 北野病院	大阪府大阪市	96	3	4(4.17)	1(1.04)	0	◎	Ⅰ期～
22	泉大津市立病院	大阪府泉大津市	96	42	0	0	1	◎	Ⅰ期～
22	兵庫医科大学病院	兵庫県西宮市	96	9	1(1.04)	0	1	◎	Ⅰ期～

◎連携強化病院認定取得者数

将来的には、しこりの大きさをリンパ節転移の有無、ホルモン受容体の状況などをコンピュータに入力して、機械的に処理することすらできるかもしれない。でも、それは医者の仕事とはいえない。患者に対して標準治療を行うことより

も、もっと重要なことは「一人ひとり、その人にとって、最もよい治療をする」といふこと。そして「年齢、社会的な立場、家庭の事情、価値観、生きがいなど、その患者さんの置かれた状況や思いなどを聞いて、その気持ちに沿っ

た治療をする。それをすることこそが医者の仕事」と強調する。ガイドラインに載っている標準治療の問題点は、個人の事情を考慮していない点だけではない。ほとんどのデータが海外のもので、日本人のデータや研究はほ

ろんどないことも問題であると、見玉院長は指摘する。見玉院長はしかし、標準治療を転視しているわけではない。かつて乳房温存手術のガイドライン作成の委員を務めていただけに、その重要性も十分に認